



南知多町立学校新校舎

「みんなで考える 新しい学校づくり」

ワークショップ

本日はご参加いただきありがとうございます。

この意見交換会では、新しい学校づくりに向けて、「新しい学校で大切にしたいこと」や「地域との関わり方」などについて、皆様のご意見を伺います。

本日いただいたご意見は、今後の新しい学校づくりの検討に活用させていただきます。
限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見をお聞かせください。

本日のプログラム

1. 小学校機能を複合した南知多町立学校新校舎建設について 【資料-1】
2. ワークショップの進め方について
3. グループワーク

テーマ①：新校舎の建設方式について

小学校・中学校を「同一棟」とする場合に期待すること・懸念すること
【資料-2】

テーマ②：学校施設の地域開放について

「学校施設が地域に開放されたら、どのように利用したいですか。」
【資料-3】

4. グループ発表
5. 質疑応答
6. まとめ・閉会（終了 21：00 予定）



新しい学校について、いっしょに考えよう！



南知多町立学校について

南知多町立中学校再編 実施計画について

南知多町では、令和3年10月に策定した「南知多町立中学校再編実施計画」に基づき、**令和5年4月に南知多中学校を開校**しました。その後、建設費の高騰などにより計画を見直し、建設候補地の比較検討や篠島地区での意見交換を経て、**新たな建設地を総合体育館周辺とし、令和15年4月の開校を目標**に計画しました。

小学校のあり方 (統合) 方針

- ①将来、小学校の統合が必要となる場合に備えるため、中学校新校舎建設に合わせて、**同じ敷地内に小学校の普通教室を建設し、特別教室などは小中学校で兼用できる校舎を計画**していきます。
- ②津波発災時に浸水の恐れがある**豊浜小学校**は、令和15年度の新校舎完成時に移設し、**児童の安全を確保**します。

〇児童・生徒数について

南知多町では、人口減少や少子化の進行により、児童・生徒数の減少が続いています。令和14年度には、児童数は**474人から266人**、生徒数は**308人から168人**まで減少すると見込まれています。
将来にわたり良好な教育環境を維持・充実するため、**児童・生徒数の減少を踏まえた学校再編**を進めています。

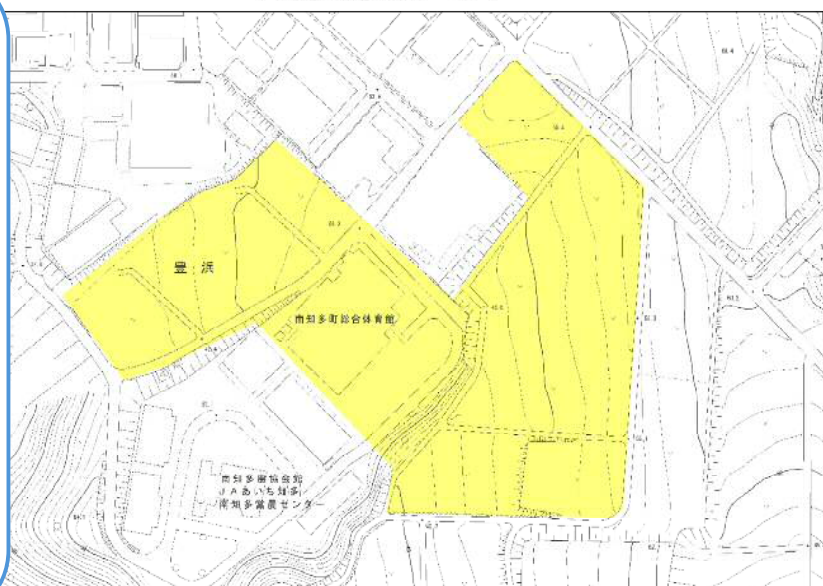
建設予定地について

総合体育館周辺に**新たな南知多町立学校の建設を予定**しています。町役場に近く、師崎港からのアクセスも良好で、町内各地区から通学しやすい立地です。

安全・防災

災害リスクが低く、安全性に優れた敷地です。土砂災害特別計画区域や洪水・高潮津波浸水区域に該当せず、事前調査においても液状化・圧密沈下などの懸念も確認されていない**良好な地盤**です。

学校建設予定エリア



南知多町立学校の校舎のこと

1. 新校舎建設の基本方針

南知多町では、中学校の新校舎を整備するとともに、将来、小学校を同じ敷地へ移転する可能性を見据え、小学校の教室なども整備する方針です。特別教室などは小学校と中学校で共用し、効率的で使いやすい学校づくりを目指します。

さらに、公民館や図書館、総合体育館などの機能を組み合わせ、子どもたちだけでなく、地域の皆さんも利用できる施設とすることを検討しています。

2. 新しい校舎を建設するにあたって検討すべきこと

学校建設検討委員の皆様を対象に事前アンケートを実施し、新しい校舎のあり方についてご意見をいただきました。各委員からの回答を整理すると、特に次の4つの視点に関する意見が多く寄せられています。

これらの視点は、今後、新しい校舎を検討していく上で重要なテーマとなります。グループワークで意見を出し合う際には、これらも参考にしながら、地域の皆様ならではのさまざまなご意見や考えをぜひお聞かせください。

①子どもたちが落ち着いて学び、生活できる環境

小学校と中学校では、一日の流れや子どもの年齢・体格が異なります。そのため、双方が安全で落ち着いて過ごせるよう、教室や廊下の配置を工夫し、動線が交錯しないように配慮することが必要となります。

②子どもの年齢や体格に合った施設・設備

小学生と中学生の体格や授業内容の違いに配慮し、それぞれが使いやすい設備や、特別教室などを円滑に共用できる仕組みを整えることが大切になります。

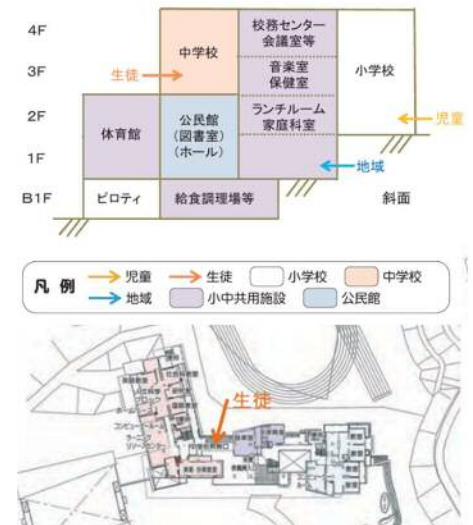
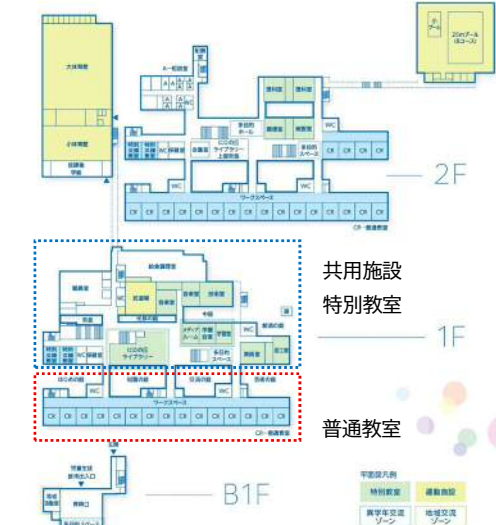
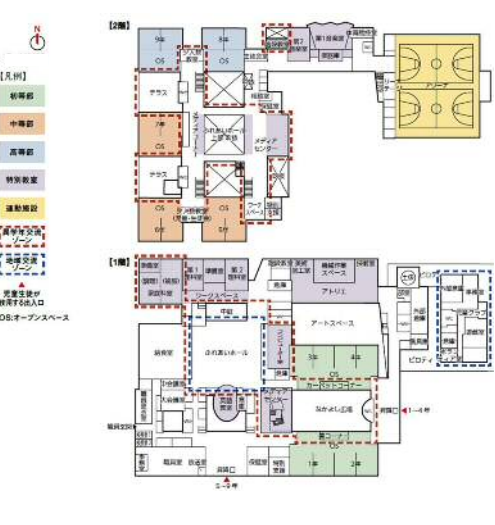
③将来の変化に対応できる校舎づくり

将来の子どもたちの数が減少することも見据え、教室の用途などを柔軟に変更できる可変性やICT教育や新しい学びの環境に対応した校舎づくりが求められています。

④建設費や維持管理費、敷地の有効活用

校舎を建設する際の費用だけでなく、完成後の光熱費や修繕費なども含め、将来にわたる負担を抑えることが重要です。また、公民館や図書館、総合体育館などとの複合化も考えながら、限られた敷地をどのように有効活用するかを検討する必要があります。

3. 小中同一棟と小中別棟について

小中同一棟型 特徴 ○同じ建物の中で、階や教室配置、共用空間などを工夫し、小学校と中学校それぞれの生活空間を分ける考え方である。 ○図書館や特別教室など共用施設を中心に配置し、必要に応じて、小中学生が異学年交流しやすい空間構成とすることができる。 ○異学年交流や小中学校合同の学習活動に対応しやすく、児童生徒数や教育活動の変化に応じた柔軟な空間利用がしやすい。 ○日常的に小学生と中学生の様子を感じられるため、学校全体としての一体感や、進学時の連続性をつくりやすい。	事例1 南砺市立利賀小学校 南砺市立利賀中学校 	事例2 瀬戸市立にじの丘学園 	事例3 飛鳥村立飛島学園 
小中別棟型 特徴 ○建物単位で小学校と中学校の生活空間を分け、それぞれの建物を渡り廊下でつなぐ考え方である。 ○小学校と中学校の生活空間の独立性が高く、発達段階に応じた学習環境や生活環境を整えやすい。 ○登下校や休み時間などにおける児童生徒の動線を分けやすく、日常生活における動線の交錯を抑えることができる。 ○小学校から中学校へ進学する際に、建物や生活空間が変わることで、心理的な切り替えや成長の節目を感じやすい。	事例1 川島町立つばさ小学校・川島中学校 	事例2 品川区立豊葉の杜学園 	事例3 土岐市立濃南小学校・濃南中学校 

小中同一型参照：

事例1：<https://www.city.nanto.toyama.jp/material/files/group/8/0000069252.pdf> 事例2：https://www.mext.go.jp/co-sha/ideas/case_setonijinooka_00001.html

事例3：https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/10/28/1360523_05_1.pdf

小中別棟型参照：

事例1：<https://www.town.kawajima.saitama.jp/secure/11539/tougoudayori5.pdf> 事例2：<https://www.city.suginami.tokyo.jp/documents/7237/2report.pdf> 事例3：<https://blog-imgs-75.fc2.com/t/o/n/tononews/20150407202403f1a.jpg>

体育館、特別教室
の地域開放

事例①：愛知県 高浜小学校・高浜市地域交流施設『たかぴあ』

整備時期	公民館（平成31年）、小学校（令和元年）、体育館、児童館（令和2年）
学校規模	20学級 608名（特別支援学級／3学級 14名）
事業概要	市立高浜小学校の老朽化を契機に、小学校を核とした公共施設（公民館機能等（体育館、集会室等））の複合化を実施
管理体制	・学校開放諸室の窓口を地域交流施設に集約
特徴 効果	・児童がサインデザインに参加する「みんなでつくる施設」を实践 ・体育館は学校と地域が共用し、学校利用時間外は地域へ開放 ・音楽室等の特別教室も学校利用時間外は地域へ開放 ・学校関連窓口の一本化し、学校現場の負担軽減 ・児童センターを併設し、放課後の居場所をワンストップで確保 ・体育館・集会室等が集約されたことで、市民が利用しやすい複合施設を実現
防犯対策	・小学校と、児童センター・体育館等との出入口を分けて動線を分離 ・館内にセキュリティゲートを設置し、小学校の防犯性を高めている

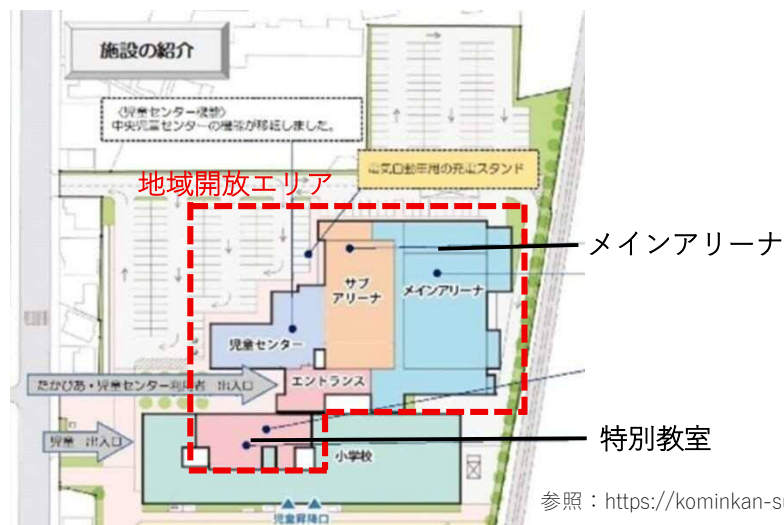
写真・配置図



体育館



音楽室（地域開放）



参照：<https://kominkan-support.mext.go.jp/case-study/takahama.html>

（写真：館内図）高浜市地域交流施設 たかぴあ - 高浜市ホームページ

図書館、特別教室
の地域開放

事例②：新城市立作手小学校＋地域交流館 作手総合支所『つくで交流館』

所在地	愛知県新城市作手高里縄手上32
整備時期	平成29年4月
学校規模	小学校：68名（2022年5月1日現在）
事業概要	旧4小学校の統合に合わせ、小学校・交流館・総合支所を一体整備。設計段階から子どもや地域住民が参画し、地域とともにつくる施設を実現。
管理体制	直営
特徴 効果	・「ランチルーム」や音響設備の整ったホールなど、地域と学校が交流・利用できる空間を整備 ・「調理室」では、地域の食に関わる仕事をする人たちによる調理部会が、子どもたちを対象にした料理教室などを定期的開催 ・ワークショップを契機に、運営開始後も調理部会、図書部会、音楽部会といった活動組織が互いに連携を生み充実した地域活動へと発展
防犯対策	「中庭」を緩衝帯として互いの活動の様子を垣間見ることができるような配置となっていることで、地域の目が防犯の役割も担っている。

写真・配置図等

配置図

交流館（ホール）

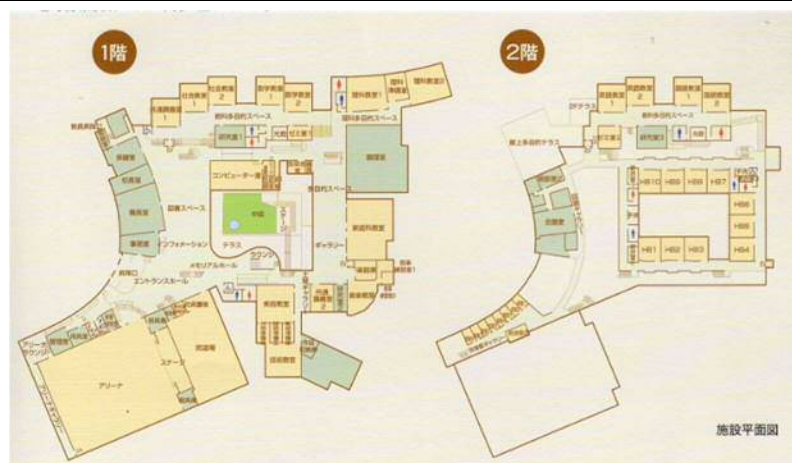
交流館（左）、中庭（中央）、小学校（右）

事例紹介：作手小学校・つくで交流館 | トピックス | こどもが変わる 学校が変わる 図書館づくり参照

事例③：下関市豊北中学校

事業概要	4 中学校の統合により新設。図書スペースや特別教室を充実させ、地域開放を通じた生涯学習の拠点として整備
整備時期	平成 17 年完成、平成 18 年度開校
学校規模	10 クラス、生徒数 245 人（平成 22 年 3 月末）
管理体制	・図書室は市が管理、図書館担当の市職員が常駐。
特徴	・地域人材を活用し、専門性の高い学習機会を提供。 ・教科センター方式を採用し、多様な学習スタイルに対応。 ・図書館や特別教室、体育館を地域開放し、交流・生涯学習の拠点として活用。 ・学校を地域の学習・交流・運動活動の拠点として整備。 ・省エネルギー設備を導入した環境配慮型（エコスクール）の施設。
防犯対策	・地域の交流活動の拠点として活用することにより、地域との交流が生まれ、地域全体で生徒を見守り育てていくという意識を高めている。

写真・配置図等



全景



多目的スペース

出典： [3 下関市立豊北中学校](#)([下関市立豊北中学校 学校紹介リーフレット](#))[その 3.PDF](#)